


チチブホラゴケ		<i>Crepidomanes schmidtianum</i> (Zenker ex Taschner) K.Iwats.	絶滅危惧 I 類
		コケシノブ科	
選定理由	生育地が少ないうえ、生育環境が川岸のという不安定な場所であるため、環境変化による種の存続への圧迫に絶えずさらされている。		写真(村瀬正成) 
形態の特徴	常緑性のシダ。根茎は長く這い、褐色の鱗片を密生する。葉身は2回羽状深裂。アオホラゴケに似るが、偽脈はない。		
生態的特徴	川岸などの陰湿な岩上に生育する。		
分布状況	本州(福島県以南)・四国・九州に分布する。岐阜県では県中央西部に生育地がある。		
減少要因	山林開発、治山工事、自然災害などによる生育地の消失。周辺地域の開発による乾燥化。		
保全対策	生育地や上流部の山林開発を控える。周辺地区の開発により空中湿度の低下などの環境変化が現れないよう配慮する。		
特記事項	岩場に着生するコケに混じって生えていることが多く、目につきにくい。また、近縁種のアオホラゴケと混同されている可能性もある。今後の詳細な調査の積み重ねにより新たな生育地が発見される可能性もある。		
参考文献			

文責: 村瀬正成